

放課後等デイサービス自己評価表 高森杜っこ分

		チェック項目	はい	どちらとも	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	4			定員を超えないようにしている。
	②	職員の配置数は適切であるか	4			職員間で連絡・相談をしながら調整している。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		3	1	・スロープの角度に不適切な箇所があるため、適切な角度に修繕してもらいたい。 ・トイレが一般家庭用のため、車椅子使用児に適していない。 ・建物の構造上、対応できない場所では、人手による対応を取っている。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか		4		・振り返りが弱い。 ・参画している職員と、していない職員がいる為、全員での話し合いを行う。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意見等を把握し、業務改善につなげているか	2	2		満足度アンケートを1度実施したが、継続して実施していく。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の開放やホームページ等で公開しているか		4		・よくわからない ・今後会報等で公開する。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		3	1	第三者に評価を依頼する。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	4			高齢協外の研修にも参加できる機会を確保している。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	4			年2回の面談を実施し、目標の達成状況や難易度調整を行いながら計画を作成している。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	1	3		標準化されたさせ素面とシートを使用していく。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	3	1		日常活動に関しては、その日の状況により打ち合わせで決定している。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	3	1		公園への外出等、同じ場所になりがちな為、活動のバリエーション増やしを目指す。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか。	2	1	1	課題を決めて活動する。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	4			利用児に応じて、どのような能力が必要かを検討し、個別・集団どちらが能力習得に適しているかを考慮し作成している。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	4			更に細かい部分までをシュミレーションしていく。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	1		3	・支援終了後はできておらず、翌日の打ち合わせで振り返りを行っている。その日の内に情報交換の時間を設けられるようにしたい。

	⑰	日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	4			・記録を次回利用時の打ち合わせで確認・共有している。 ・記録の書き方を共通にするよう勉強会を開く。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	3	1		定期的なモニタリングを実施していく。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っているか	1	3		ガイドラインの総則を周知する。
関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	4			利用児の状況をよく理解していることに加え、他職員からも情報を得て参画している。
	㉑	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時間の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	4			同じ学校の利用児同士で利用時間を照らし合わせ、下校時間が異なる場合は学校へのお迎え時にその都度確認している。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか				該当しない
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	1		3	繋がりを作り情報共有に努める。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	2	1	1	担当者会議が開催される場合は、必要な情報を提供できるよう職員間で情報を出し合う。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	4			開催される研修に1人でも参加できるよう勤務調整をする。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		2	2	・交流の機会がなかなか持てていないのが現状な為、内容を検討・計画後に呼びかけていく。
	㉗	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	1	2	1	積極的に参加していく。
	㉘	口頭から子どもの状況を保護者と伝え、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	4			成功例も失敗例も報告、家庭での様子から改善点を共に考え支援するよう努めている。
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	1	1	2	求められている内容を聞き取りやアンケートで明確にし、ペアレント・トレーニング等の支援に繋げていく。
保護者への説明責任等	⑳	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	3	1		必要時には説明する時間を設けていく。
	㉑	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	4			必要な事に関して、職員間でも情報を共有し、支援に反映させるよう努めている。
	㉒	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	4			月1回保護者茶話会を実施している。
	㉓	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を西部するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	3	1		苦情解決委員会を始動していく。
	㉔	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対し発信しているか	4			杜っこ便りを配布、その他必要時にはその都度お知らせを出し発信している。
	㉕	個人情報に十分注意しているか	2	2		意識向上の為、勉強会を定期的に開催する。
	㉖	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	4			言葉に加え、文字にしたり絵や実物を見せて発信している。

	⑳	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	1	3		秋に開催予定。
非常時等の対応	㉑	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	1	3		完全に周知できていない為、まずは職員間で共有し、その後保護者にも周知できるようにしていく。
	㉒	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	4			想定される災害を変更しながら訓練を行うよう努めている。
	㉓	虐待防止をするため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	4			虐待防止委員会を設置、外部からの講師を招いての勉強会も実施している。
	㉔	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	3		1	計画書への記載を統一していく。
	㉕	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	4			保護者との連携により、おやつは持ち込み等、柔軟に対応している。
	㉖	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	1	1	2	・常勤会議で時折話し合う程度。事業所内では全員に共有できていない。 ・ヒヤリハット事例集を作成・共有していく。